

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		東京家政大学 児童発達支援事業所 わかくさ				公表日	R8年 7月1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だとと思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100	0	療育に必要なスペースは十分である。広いスペースをパーティションで仕切り、その日の活動に集中できるような環境にしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100	0	状況に応じて一人ひとりに合わせた支援が行えるように、スタッフの人数を含め体制を検討しながら進めている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100	0	通室後の支度や活動前の準備等に、パーティションを活用し、集中して行えるよう配慮している。その日の活動などには絵カード等を使って、見通しを持って安心して活動に参加できるようにしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100	0	療育が終了するたびに、部屋の清掃を行い、おもちゃの消毒も行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100	0	パニックに陥ったり、興奮しているときは、部屋を区切って落ち着けるスペースを設定し、クールダウンできるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100	0	個別支援計画の作成会議はもちろん、日々の療育の前後は、必ずカンファレンスを行い、次回につなげている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	苦情対応窓口の設置については、利用者に周知している。気が付いたことは、なんでも話せる関係に努め、指摘に関してはスタッフ間で共有し、すぐに対応している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100	0	気が付いたことは、全員で共有し、すぐに改善できるようにしている。また、改善したことは、利用者に周知している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	100	学校法人渡辺学園の学内監査、板橋区の実地指導を受け運営が正しく行われていることが確認された。また、学園からは、より利用しやすい事業所になるよう助言を受け、運営に活かしている。また、自己評価のアンケート結果も前向きに受け止め改善につなげている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100	0	研修受講のための予算と時間の確保を十分に取り、学びたいことを受講し知識を高める機会が持てている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100	0	支援プログラムの作成にあたり、療育室内の掲示とともに、各家庭に配布し、不明な点があれば質問できるようにしている。	療育内に掲示してあるが、契約時に個別にお渡しし、いつでも確認できるようにしていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	100	0	児童発達支援管理責任者が保護者と面談を行い、保護者と丁寧な聞き取りを行いながら、作成している。	入室当初の計画は、暫定的なものであることをご理解いただき、できるだけ早く、お子さんの今の姿に合った計画を作成し、説明できるようにしていく。	
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100	0	児童発達支援管理責任者が作成した支援計画のベースを、全員が読み取り、意見交換しながら作成している。		
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100	0	完成した個別支援計画を、スタッフ全員が確認し保護者に説明している。また、担当の保育者が専門的支援計画を作成し、より具体的なものになっている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100	0	必要に応じてKIDS、感覚プロファイルを実施し、療育に活かしている。また、日々の療育の様子を振り返ることで、個々の姿を共有している。		

適切な支援の提供	16	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100	0	個別支援計画、専門的支援計画ともに、五領域に加えて、ガイドラインに書かれてものを踏まえ、すべてが網羅するものとなっており、具体的な支援内容（活動内容）につなげている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100	0	療育グループ担当が、月単位で立案し、それを全員が目を通し、承認されたものをカリキュラムとして前月末に各家庭に配布している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100	0	感覚遊び、粗大・微細運動、集団、ルール遊び、表現遊びとバランスよく計画している。月案を作成することで、活動内容が見える化され、バランスよく活動を提供できている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	100	0	自由遊びの中で個別で活動できる時間を作り、その後集団活動を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100	0	毎日、支援開始前の30分～40分程度打ち合わせの時間を確保している。その日の活動の内容や個別の予想される姿、その対応等、綿密に話合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100	0	支援後、振り返りを必ず行い、その日の療育の進め方に対する反省、個々の姿の共有等を行い次回につなげている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100	0	5領域ごとに記録を書き、活動への参加状況や姿の変化がわかるように個別の記録に記入している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100	0	個別支援計画の振り返りで、最低6か月に一度はモニタリングし、個別支援計画の見直しを行っている。また、学期ごとに振り返りシートを独自で作成し、保護者も自ら振り返る機会を作り、育ちを共有している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100	0	子ども家庭支援センターや相談支援事業所からの召集による会議には、施設長とともに、児童発達支援管理責任者、担当保育者も同行し、参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	85.7	14.2	そこまで幅広い機関との連携はできていないが体制は整えており、必要があれば行う用意はある。医療機関との連携は家庭からより丁寧に情報を聞き取ることを心掛けている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100	0	保護者に個別支援計画のコピーをお渡しし、関係機関との共有をお願いしている。保護者のニーズにより、幼稚園・保育園など併用しているお子さんの園を訪問し、観察・担任との打ち合わせを行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100	0	毎年、就学支援シートへの記入をするともに、入学後には卒室児の就学先に直接伺い、小学校の担任と情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	42.8	57.1	児童発達支援センター主催の研修に積極的に参加し受講している。学内の教員にも相談できる機会が持てている。	

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	28.5	71.4	学内のナースリールームの場所を活用させてもうことはある。しかし、ほとんどの子が幼稚園・保育園との併用なので、その必要性はないと考え機会を設けることはしなかった。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100	0	保護者同伴で通室する施設であるので、今日の子どもの姿を見ながら、成長した姿や課題を共有することができている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100	0	わかくさ会でのピアサポート、わかくさセミナーでの保護者対象の勉強会などを実施した。また、グループごとの保護者会を開催し、お互いを知り学びあえる環境を作っている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100	0	入室の契約の際には、重要事項説明書、契約書、利用の手引き等を読み合わせし、ご家庭に持ち帰って頂き、理解できないところは再度説明できるようにしている。	運営規定、支援プログラム等に加え、様々なことがマニュアル化してあるので、それらがあることを年度初めに説明し、療育室に置き、各自が目を通せるようにし、理解していただけるようにしている。
	36	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100	0	児童発達支援管理責任者が保護者と面談を行い、お子さんについて家庭で困っていることや、保護者の希望などを丁寧に聞き取り、作成に活かしている。	
	37	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	100	0	児童発達支援管理責任者が面談で話したことを踏まえて、作成した個別支援計画を説明し、ご理解いただいたうえでサインを頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100	0	保護者同伴の通室なので、話す機会は持っており、その中で、今までの家での様子や、幼稚園での出来事、家庭での困りごとを話す時間は持っている。時間が必要な時は、面談のセッティングを行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100	0	わかくさ会でのピアサポート、わかくさセミナーでの保護者対象の勉強会などを実施した。また、グループごとの保護者会を開催し、お互いを知り学びあえる環境を作っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100	0	日々、話す機会が持てているが、時間をとったほうが良い話の時は、こちらから面談を持ち掛けることもある。相談の申し出があったときは、迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100	0	毎月、グループごとにカリキュラムを配布し、そこに連絡事項も入れている。今年度より、Instagramを開設し情報提供している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100	0	個人の書類は鍵の掛かる書庫に保存しており、わかくさから持ち出すことはないことを保護者にも周知している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100	0	子どもにも保護者にも個々に合わせて、理解できるような方法で分かり易く知らせている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	42.8	37.1	地域全体に向けた行事は行っていない。利用者に対しては、わかくさ会という同窓会を行い、保護者同士の縦のつながりを作っている。子ども達は、懐かしい場所で過ごしたり、年齢の違う子どもと関わる経験ができている。学内においては、学生を積極的に受け入れ学びの場となっている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100	0	地震と火事を主に、毎月避難訓練を行っている。防災頭巾に慣れることや素早い避難のために小さな子はおんぶされることに抵抗ないようにするためにふれあい遊びにのなかにも取り入れている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100	0	BCPの作成はできており、保護者にも周知している。大きな災害時は、学園の指示に従って避難となるが、学園の防災訓練にも参加している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100	0	入室の契約時に、家庭調査票に今までの育ちについて記入していただき、服薬、予防注射、既往症などについても確認している。	

非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100	0	アレルギーがあるお子さんについては、医師の生活管理表をご持参いただき、その指示に基づいて対応している。食事時のテーブルを個別にすることや、食後の拭き掃除を丁寧にするなど配慮している、	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100	0	安全計画の作成と共に、内容を知ることができるよう療育室にも置き、閲覧できるようにしている。定期的に訓練も行い実施記録もつけている。	年度初めに全員に安全計画等、内容の周知し、内容がわかるよう療育室に置き閲覧できるようにしている。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100	0	保護者も一緒だが、避難訓練だけでなく、様々なことについてマニュアル化し、対応できるようにしている。保護者への周知が低かったので、年度初めに全員に説明し、療育室にも目を通せるように置くようにした。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100	0	ヒヤリハットは、個人を責めるものではなく再発防止のためにあることを周知しているので、何かあったか自分からヒヤリハットを書く習慣ができています。次につながるよう再発防止策をみんなで考えている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100	0	保護者も一緒に通室なので、虐待と言われる行為はないと思うが、相手を傷つける言葉等も虐待とみなし、それも含めて研修を行い、虐待防止を意識するよう心掛けている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	100	0	基本的に身体拘束等は行わないが、危険な時には、身体を抑えるなどを行うことを個別支援計画に明記している。	